

1 溝手家住宅主屋、新座敷、ビリヤード場、一号蔵、二号蔵、三号蔵、屏風蔵、

倉庫、漬物小屋、長屋門

- (1) 所在地 都窪郡早島町
(2) 所有者 個人
(3) 概要

17世紀から村役を務めた豪農の住宅。敷地中央に主屋を建て、東の前庭を囲んで南に新座敷、東に長屋門が建つ。主屋北にはビリヤード場、一号蔵、北西に三号蔵を建てるほか、2,060坪におよぶ広大な敷地には倉庫、屏風蔵、漬物蔵、二号蔵を点在させる。主屋は江戸中期に遡るとされ、入母屋造（いりもやづく）り茅葺（かやぶ）きに入母屋造り鋳（しころ）葺きの玄関を付す豪壮な正面構えで、中庭を介して西には入母屋造り棧瓦葺（さんかわらぶ）きの二階建て居宅を一体として建てる膨大なもの。新座敷は客用離れ座敷で四畳半台目（だいめ）の茶室や八畳座敷が続き、良質な数寄屋（すきや）普請が前庭の点景となる。各土蔵は腰と四隅を海鼠壁（なまこかべ）とする、岡山県南部地方特有の意匠。なかでも一号蔵は切込接（きりこみは）ぎの石積み上に建つ丁寧な仕事。ビリヤード場は和風の外観ながら、内部はクロス貼りの壁に漆喰天井を張る本格的な洋風の設えを持つ。江戸中期に遡る入母屋造り本瓦葺きの長屋門とともに、近世から近代にかけて整備された豪農の壮大な屋敷構えを良く残している。

(4) 登録基準

一、国土の歴史的景観に寄与しているもの



位置図



主 屋



新座敷



ビリヤード場



一号蔵



二号蔵



三号蔵



屏風蔵



倉庫



漬物小屋



長屋門

【用語解説】

- 入母屋造（いりもやづくり）：寄棟造の屋根上部に切妻の小屋根を合わせたような形状の屋根の造り。
- 茅葺（かやぶき）：薄（すすき）・葭（よし）・麦藁などを葺き材とした草屋根。
- 鍛葺（しころぶき）：瓦葺き屋根において行われる屋根の流れ方向の面の途中に段差を設けた屋根の葺き方の一つ。
- 棧瓦葺（さんがわらぶき）：断面が波型の瓦で葺いた屋根のこと。本瓦と比べて経済的である。
- 台目（だいめ）：一般の畳の3/4の大きさと、茶室用の畳。
- 海鼠壁（なまこかべ）：平瓦をはりつけ、瓦の間を、漆喰（しっくい）で蒲鉾形に高く盛り上げてつくった壁。
- 数寄屋造（すきやづくり）：茶室風の和風建築のこと。
- 切込接ぎ（きりこみはぎ）：切り出して整形して仕上げた石材を積む方法。

